

4月

カトリック麹町教会



St. Ignatius Church, Tokyo
Celebrating 25years

MAGIS = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに
～ともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ～



よみがえられた主イエス、夕暮れのエマオへの道で、失意の弟子たちに寄り添い告げられた、いのちの御言葉を私たちにも聞かせてください！

さきの能登半島地震とその関連で亡くなられた方々の安らぎをお祈りするとともに、被災された方々に哀心よりお見舞い申し上げます。また、復旧復興にご尽力されている方々に敬意を表し、その進捗が速やかでありますよう祈念しております。復活祭を祝いながら、聖

主のご復活おめでとぅございませう
いのちの御言葉を私たちにも聞かせてください

主任司祭 高祖敏明

歌「ガリラヤの風かおる丘で」の一節が自然に祈りとなります。能登半島地震を始め、先年トルコとシリアやアフガニスタンを襲った大地震の爪痕、終結の見えないウクライナ、ガザ、ミャンマーなどで続く戦争と破壊の数々、いよいよ混迷を深める社会の分断や国同士の対立激化などなど。

十字架上で自らのいのちを捧げ、復活した主は、こうした事態に心を痛める私たちに何を語りかけておられるのでしょうか。

教皇フランシスコは、現代世界が経験している時代の変化の中で、聖霊が私たちにどこへ導いておられるかを共同識別するよう呼びかけておられます。「旅する神の民」である教会の、今回のシノドスが推進する「ともに歩む」は、この道を進んでいきます。

今年、現聖堂の献堂25周年（旧聖堂からは75周年）を迎えた聖イグナチオ教会もシノドスの呼びかけに応えて、「さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに」とともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ」を2024年度の教会テーマにしています。

25年前に献堂式を祝った6月6日に最も近い6月9日の主日には記念ミサを、また、10月13日（日）には大司教と各方面の恩人方をお招きして、これまでのご加護と導きを神に感謝する現聖堂25周年記念ミサを皆で捧げます。

今年、東京教区内で私たちと宣教協力体を組んでいる神田教会と築地教会が、ともに献堂150周年を祝います。これに伊豆大島教会を加えた4つの教会が協力して共通の祝賀記念カードを作製し、それぞれの記念ミサ（築地：6月30日、神田：9月16日）の際に配布する予定です。

これらを単なる打ち上げ花火に終わらせるのではなく、シノドスの「ともに歩む、宣教に向かう交わりのダイナミズム」に加わるため、当

教会報 MAGIS 4月号	
† 2024年度教会テーマ	P2
† 【現聖堂25周年記念】 テーマとスケジュール	P3
† 2月の主な教会行事報告	P4
† 新年度「入門講座」開講	P5
† 〈現聖堂25周年記念連載〉③	P6
† Family of St. Ignatius ～英語圏から～	P7

教会は「ミッション2030」の達成に努めています。ここでは、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」「新しい協働を進める」という4本柱を相互に、聖霊の導く道と方向を共同識別しながら、祈りと愛の交わりである生きた共同体へとさらに育っていきたいと願っています。

多方面にわたる献堂25周年記念行事も、この基本方針に則し、未来を展望しながら企画・運営されます。未来展望には、将来を見据えた施設設備の改良修繕案も含まれており、そのための募金も始めます。聖霊の導きに信頼し、変化をいとわず未来を創っていくプロジェクトに、皆さまの積極的な参加とご支援をお願いいたします。

【4月の共同祈願】

新しく洗礼を受けられた方々とともに

歩んでゆく私たちの道を、

聖霊の息吹で満たしてください。

神の国の実現のために

ともに働くことができますように。

【ミッション2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、環境破壊など、未来に希望を見出しにくい反福音的なものに脅かされています。それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、いつくしみの扉を開いていきます。私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、貧しい人や弱い人の声を聴き、皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

宣教司牧評議会より

2024年度教会テーマ決定

信徒代表 塚本京子

毎年評議員は9月の2日間、司祭団、シスター方の指導の下で研修会を行っています。今回のテーマは「シノドスを考える」でした。

講話に耳を傾け、次年度の教会テーマについて検討しました。

昨年4月に着任された高祖敏明主任司祭よりアフターコロナの共同体制から、次に教会はどこへ向かって進んでいくのかなどについてお話を伺いました。

教会テーマを考える準備として、それを受けた後2〜3分の静思の時を過ごし分かち合いました。これが第1ラウンド。また、祈りを深め第2ラウンドに入ります。それぞれに分かち合いから心を動かされたこと、響いたことを分かち合います。そして、再び祈りの時を持ち、聖霊は私たちに何を語っておられるかを感じ取ります。第3ラウンド終了。この一連の分かち合いが、霊的対話(共同識別)です。皆さまも名前だけはお聞きになつてい

2024年度教会テーマ

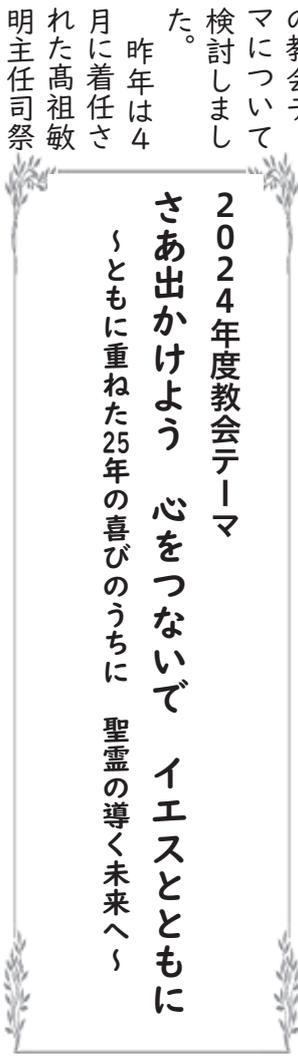
さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに

ともに重ねた25年の喜びのうちに 聖霊の導く未来へ

て、再び祈りの時を持ち、聖霊は私たちに何を語っておられるかを感じ取ります。第3ラウンド終了。この一連の分かち合いが、霊的対話(共同識別)です。皆さまも名前だけはお聞きになつてい

させるものばかりです。研修会2日目には神父様、シスター方から「シノドスを考える」をテーマでお話しいただきました。それぞれの言語圏の実情から聖イグナチオ教会が「ともに歩む」ための方向性が出ています。うに感じました。これも25周年である今年度の目標でもあります。これからの教会を担っていく世代へとつなげていきたいテーマです。

ともに「聞く、耳を傾ける」「兄弟姉妹」「言葉を越えてつないで」「言葉と世代をつなぐ」「壁を越えて」「向こうに越えていく」「ともに歩む」「新しい歌」「神の子として」「こうした言葉が分かち合われました。そして、第3ラウンドで対話の成果を識別してまとめました。聖霊の導きに従つてもに形づくることが、プロセスそのものが、今年度のテーマに現れたように思います。



2日

間の学びと祈りの中で生み出された言葉から、今年度の教会テーマを考えました。

再び霊的対話の道のりに沿って、第1ラウンドでは、祈りの中で心が動かされた言葉、そしてそれをまとめたテーマを、それぞれが語り、また耳を傾けます。第2ラウンドでは、他の人が語ったことから、それぞれが一番心に響いたことを伝えます。「ともに重ねた25周年」「聖霊の導き」「聖霊の道」「イエスと

25周年を機に内外に目を向け、聖霊の導きを識別して新しい扉を開いて参りましょう。



現聖堂25周年の テーマについて

運営委員長 塚本京子

2024年6月6日に現聖堂は25周年を迎えます。

旧聖堂の献堂から75周年、その前身六番町にあった聖テレジア教会の献堂から88周年となります。

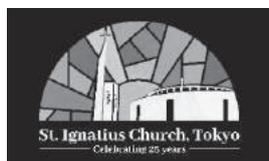
この長い歴史を築いて下さった先輩方に感謝しつつ、全信徒で福音の喜びを分かち合いましょ。聖イグナチオ教会では「ミッション2030」の実現に向け「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」「新しい協働を進める」の4本の柱を目標にしています。

今年度の現聖堂25周年のテーマは「さあ出かけよう心をつないでイエスとともに」です。年間を通して、多言語

の共同体が今以上に交流できるようなミサ、子どもたちの信仰を育むためのシンポジウム、記念品など喜びを形にする準備が信徒を中心に進んでいます。

ここ数年国外では、戦争・迫害、国内では天災・事故に加えコロナ禍で内向きになっていました。これからは外にも目を向け近隣の教会とも協働し、また国外の支援なども広げていければと思います。信徒がお互いを知りともに歩んでいく教会となれるよう聖霊の導きを願います。

教会記念行事のスケジュールは以下の通りです。皆さまのご協力とご参加をお待ちしております。



『さあ出かけよう 心をつないで イエスとともに』

現聖堂25周年テーマ

現聖堂25周年記念 イベントスケジュール

2024年4月～2025年3月

✦ 開催日程 ✦	✦ 公式イベント ✦
4月 24日(水)～26日(金)	巡礼【下五島巡礼～奈留島潜伏キリシタンの「阿古木古道」を歩く～】
6月 4日(火)	オルガンと祈り「パイプオルガン奉獻25周年記念」
6日(木)	現聖堂25周年献堂記念日
9日(日)	◇ 現聖堂25周年献堂記念主日ミサ ◇ 1999年6月6日タイムカプセル公開
23日(日)	講話・黙想・霊における対話①/ミッション 2030 企画
7月 28日(日)	インターナショナル・イグナチアンユースデー 聖体賛美式
7月～8月 夏休み中	ジュニアオルガンデー
10月 13日(日)	教会祭 ◇ 現聖堂25周年記念ミサ/ The 25th Anniversary International Mass ◇ 【教会の子どもたちのこれからを考えるプレシンポジウム】/ミッション 2030 ◇ 100周年に向けタイムカプセル展示
14日(月・祝)	パイプオルガン見学ツアー
27日(日)	講話・黙想・霊における対話②/ミッション 2030 企画
11月 10日(日)	【教会の子どもたちのこれからを考えるシンポジウム】/ミッション2030
14日(木)～16日(土)	巡礼【高山右近ゆかりの地 ～大阪、金沢巡礼～】/ミッション2030
23日(土・祝)	教会黙想会
2025年 2月 23日(日・祝)	講話・黙想・霊における対話③/ミッション 2030 企画
3月 20日(木・祝)	四旬節黙想会

*スケジュールは状況により変更になる場合があります。

教会行事

2月の主な教会行事をご紹介します。

●灰の水曜日

2月14日(水)7時、12時、19時の3回に分け、主聖堂で行われました。3年超に及んだコロナの影響もほぼなくなり、約2千人が額に灰を受けました。



12時のミサで司式のサトルノ・オチョア神父は「四旬節の間、イエスキリストが荒野野に入って神さまや悪魔そして本当の自分と出会い、私たちのために命を捧げられました。私たちも四旬節の間に回心し、個人だけでなく教会として、また人類として世界各地で起き

ている戦争や困難な状況に神のゆるしを求め、イエス・キリストとともに神さまのいつくしみに入りましょう」と話されました。その後、参列した信徒は灰の祝福を受け、聖体拝領に与りました。

●洗礼志願式ミサ

2月18日(日)10時のミサで、80名の洗礼志願式が行われました。主司式の高祖敏明主任司祭は以下のように話をされました。「福音朗読『悔い改めて福音を信じなさい』(マルコ12:15)にあるように、悔い改めは繰り返し行う絶えざる歩みで、つまり神の国に近づくことができる。そういう招きが始めら



れている戦争や困難な状況に神のゆるしを求め、イエス・キリストとともに神さまのいつくしみに入りましょう」と話されました。その後、参列した信徒は灰の祝福を受け、聖体拝領に与りました。

●十字架の道行

2月16日〜3月29日の毎金曜日18時45分からマリア聖堂で、3月29日は15時から主聖堂で行われました。

2月23日(金・祝)は17時からマリア聖堂で、昨年のワールドユースデーリスボン大会に参加した青年たちを中心に実施され、大会時に教皇フランシスコが述べた「十字架の道行」に関するメッセージが読み上げられ、第一留から第14留まで、一つの留ごとにローソク一本ずつ火を灯し、終えるごとに消しながら進みました。

今年も『十字架の道行』(カトリック中央協議会編)を使って、静寂のなかで復活の神秘を黙想しました。



日本のカトリックに貢献した
作家・遠藤周作と
作曲家・高田三郎を偲んで

聖イグナチオ教会「現聖堂25周年記念行事」の一環として、2月24日(土)ヨセフホールで、「日本のカトリックに貢献した作家(遠藤周作)と作曲家(高田三郎)を偲んで」が開催され、朗読ユニットF20の2人による『沈黙』の朗読とテレジア聖歌隊による典礼聖歌に100名近い来場者が聴き入った。

歌われている典礼聖歌の多くは、高田氏の作曲によるものである。

この会は当初「遠藤周作生誕100周年、高田三郎生誕100周年を記念して」という企画で内容的にも合う受難節の開催となり、25周年記念行事に指定された。

「谷川の水を求めて・・・」と聖歌が始まるとホールは静けさに包まれ、引き続き『沈黙』のクライマックス第8章の朗読が始まった。遠藤氏は、聖書の記述を巧みに重ね合わせながら、捕らわれた司祭ロドリゴが踏絵に足をのせるまでの一日余りを描く。最後は、「踏むがいい」というキリストの声が高く静かに一人ひとりの心に響き、「たとえ天使の言葉と話しても、愛がなければ無に等しい」という『愛の賛歌』、そして『神の前に貧しい人は』の聖歌で幕を閉じた。



遠藤氏は日本の精神風土とキリスト教の問題を追究したカトリック作家として知られ、キリスト教弾圧時代を舞台とした『沈黙』はその代表作。因みに遠藤氏の遺骨は当教会の地下納骨堂に眠っている。

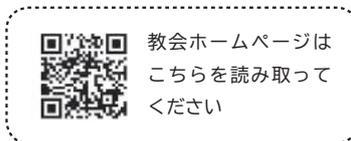
高田氏は晩年、日本語歌詞による典礼聖歌の作曲に心血を注いだ。現在日本語で

(テレジア聖歌隊)



入門講座 開講！

※講座内容、講座担当者の連絡先等は、教会のホームページに掲載されています。また講座のスケジュールは急に変更になることがありますので、初めて参加される際は講座担当者が教会事務室にあらかじめご確認ください。



●日曜日の講座

日時	担当	場所
第2・第4日曜日 9:30～10:45	シスター野本佳子	岐部 305*
毎週日曜日 11:15～12:30	木村美智子 信徒	岐部 309*
月2～3回日曜日 16:00～17:30	シスター杉原法子	203B

●月曜日の講座

日時	担当	場所
毎週月曜日 10:30～12:00	古川清志 信徒	302
毎週月曜日 19:00～20:30	ゲエン・タン・ニャー神父	アルペホール

●火曜日の講座

日時	担当	場所
毎週火曜日 10:30～11:40	ハビエル・ガラルダ神父	アルペホール
毎週火曜日 14:00～15:30	サトルニノ・オチョア神父	ヨセフホール
毎週火曜日 18:45～20:00	古川清志 信徒	302

●水曜日の講座

日時	担当	場所
第1・3水曜日 10:30～11:45	シスター野本佳子	401 または Zoom
第1～4水曜日 19:00～20:30	シスター品川ヨシ子	302
第2・第4水曜日 18:45～20:00	柴田潔 神父	203B

●木曜日の講座

日時	担当	場所
第1・第3木曜日 10:30～12:00	信徒担当	203B または Zoom
毎週木曜日 18:45～20:15	岩島忠彦 神父	アルペホール

●金曜日の講座

日時	担当	場所
第2・4金曜日 18:00～19:30	シスター大原悦子と信徒	203B
毎週金曜日 18:45～20:00	ハビエル・ガラルダ神父	アルペホール

●土曜日の講座

*以外はすべて信徒会館内

日時	担当	場所
毎週土曜日 10:30～12:00	小島修矢 信徒 内田正 信徒 古川清志 信徒	302
毎週土曜日 16:30～17:45	ハビエル・ガラルダ神父	アルペホール
第1・3・4土曜日 17:00～18:00	シスター品川ヨシ子	203





St. Ignatius Church, Tokyo
Celebrating 25 years

〈現聖堂25周年記念連載〉 ③

キリストの体である教会 「頭はキリスト」に込められた意味

高祖敏明神父

キリストの体

古くから「教会」はさまざまにイメージで表されてお
り、「教会」という言葉には
深い意味があります。私は主
任司祭として、たびたび「教
会はキリストを頭とする一
つの体」という表現を使っ
てきました。今回はその意味
をお話ししましょう。

まず「キリストの体」とい
う言葉には、キリストの肉
体、ご聖体、教会共同体とい
う三つの意味があります。こ
の三つは互いにつながり合っ
ていますが、基礎となるのは
キリストの肉体です。

イエス・キリストは受肉
し、罪以外は私たちと同じ
人間になって私たちの間に



③

キリストの体である教会

高祖敏明神父

宿られ、十字架上で死んで
葬られ、復活されました。つ
まり十字架上でいのちを捧
げられた肉体が、私たちを
救う道具となったのです。

同時にキリストは、ご自分
の体を私たちのいのちの糧
として提供されました。それ
がご聖体です。

ここでは、「体は魂の牢
獄」と見る体と魂の二元論に
立たないことが重要です。体
を造られたのも神であり、人
間は体と魂が一体の存在と
して救いにあずかります。

霊や魂と体を対立させて
捉えると、ご聖体も成り立
たなくなってしまう。パン
はキリストの体そのものへと
変えられ、ご聖体を拝領す
る私たちはキリストと一致

し、一つのパンを分けて食べ
る私たちもまた一つの体で
す。「パンは一つだから、わた
したちは大勢でも一つの体
です。皆が一つのパンを分け
て食べるからです」(一コリ

ント10:17)とある通りです。
キリストの体である教会

次に「キリストの体であ
る教会」(コロサイ1:24)と
いう言葉の意味を、パウロの
気づきから探ってみます。こ
の言葉の土台にあるのは、パ
ウロの回心の体験です。

キリスト者を迫害してい
たパウロは、ダマスコに向かう
途中で強い光を受け、「わた
しは、あなたが迫害している
イエスである」(使徒9:5)
という声を聞きました。この
時パウロは、「キリスト者と
イエス・キリストは一体だ」
という奥義に気づきました。

そしてキリスト者はキリスト
とともに教会という「一つの
体」を構成しているという、
この原体験をもとに宣教活
動を展開していきました。

この洞察は次第に深まり
を見せます。「わたしたちも
数は多いが、キリストに結ば
れて一つの体を形づくってお
り、各自は互いに部分なので
す」(ローマ12:5)と、キリス
ト者一人ひとりがキリスト
の体の部分を構成している
という理解から、「教会の頭
はキリストご自身」という段
階へ至るのです。

教会の頭であるキリスト

では、「頭」に込められた
意味は何でしょう。

頭は、身体が一番上にあ
る部位ということから派生
して、他より卓越したリー
ダー、トップという意味をも
ちます。パウロもその意味で
頭という言葉を使っています。

しかもこの卓越性には二
つの方向があります。一つは
被造物全体に対する卓越性
です。人間、自然、天使とサ
タン。キリストは神が造られ
たすべての被造物の上にあっ
て、支配しています。

もう一つは全教会への卓
越性です。キリストの支配
は、教会を通してすべてに及
びます。その点をパウロはこ
う述べています。「神はまた、
すべてのものをキリストの足
もとに従わせ、キリストをす
べてのものの上にある頭とし
て教会にお与えになりました。
教会はキリストの体であ
り、すべてにおいてすべてを
満たしている方の満ちてお
られる場です」(エフェソ1:
22-23)。

なお「頭」にはもう一つ、
体全体に栄養を与え、いのち
を注ぎ、生かしていくという

役割もあります。頭である
キリストを通して私たちは
神のいのちを受け、生かされ
ているのです。

最後に今日の話のまとめ
です。

私たちは洗礼によってキ
リストに結ばれ、キリストの
体を構成する部分として、
そこに組み込まれています。
その頭となつていのちを与え
てくださっているのは、キリ
ストです。また私たちには一
人ひとり、奉仕をしたり、教
えたり、慈善をしたりなど
の賜物が与えられています
が(ローマ12:6-8)、おのお
のがその役割を果たすこと
によって体全体が成長してい
きます。その鍵となるのは互
いに仕える愛、その愛を生き
ることです。

キリストと深く結ばれ、頭
であるキリストに倣って互い
に仕え合いながら、ともに歩
んで参りましょう。



✦ ✦ ✦
本稿はミッション2030
プロジェクトチームが2月18
日(日)に開催した【黙想と
分かち合い】での高祖敏明
神父の講話から抜粋・編集
したものです。



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

ゆるしの秘跡の復活

ある司祭が私に言いました。「シスター、成長した子どもが告解を実践して育ってきたかどうか、あなたならわかるでしょう」

私たちは日曜学校で、多くの子どもたちが初聖体を受けた後、二度とこの秘跡を受けに来ないことに気づきました。告解のしかたを忘れてしまったのか、あるいは「罪」とは何かという漠然とした考えをすでに持ってしまったのか。同様に、親も告解を敬遠しがちです。多くの大人にとって、これは「人気のある秘跡」ではありません。

四旬節の第3日曜日、英語日曜学校では、子どもたち、保護者、カテキスタに「ゆるしの秘跡」を受ける機会を提供しました。その前に、カテキスタたちは、四旬節の精神と結びつけながら子どもたちに授業を行い、希望する保護者には、大人用の糾明の資料と、「告解の新たな見方 喜びの秘跡」という記事を配布しました。

「わたしの小羊を飼いなさい」(ヨハネ 21:15)、「私の羊を飼いなさい」(ヨハネ 21:17)とイエスは言われました。教皇フランシスコが配布した記事で信徒に勧めるように、秘跡の喜びを実際に発見したことを願っています。

喜びのイースターに

シスター フロール・フロレーセ

●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(3月7日開催)

1. 現聖堂25周年行事の一環として、教会公式YouTubeチャンネルを使用したラジオ番組「イグラチオ」を開始します。25周年関連の情報をはじめとして、さまざまな情報をお伝えする予定です。
2. 4月28日(日)10時ミサ終了後、ヨセフホールにて、新しくお迎えした協力司祭の中村健三神父、グエン・バン・テー神父、セントロ・ロヨラのシスターマルセラ・ロサス、セントロ・ロヨラを去られるシスターイベッテ・サンチェスの歓送迎会を行います。

●新型コロナウイルス感染症対策●

昨年5月から、新型コロナウイルス等の感染症について、政府から一律に対応を求められることはなく、個人や事業者が自主的に判断しています。

聖イグナチオ教会では、新型コロナウイルスの発生以降、一定の感染症対策を実施してきましたが、新年度を迎えるにあたり、4月から制限を解除いたします。

感染症対策として、「手洗い・手指消毒」「換気」「咳エチケット」などは有効です。お互いが気持ちよく過ごせるよう、ご配慮を引き続きよろしくお願い致します。

1. マスクの着用について
マスク着用は任意です。感染症対策としてのマスクの着用は、個人の判断とします。
2. 聖体拝領について
・手指消毒は任意です。
・口での拝領を希望される方は、司祭の列の最後で拝領してください。
3. 飲食について
・飲食は可能です。
・感染症や食中毒などの予防・対策を十分に心がけてください。

主任司祭 高祖 敏明

ミッション 2030 プロジェクトチーム

【つながるプロジェクト】

～いろいろな言語の人たちとミサでつながろう～

ミッション 2030 プロジェクトチームでは、新たな取り組みとして、【つながるプロジェクト】を始めます。

聖イグナチオ教会には、いろいろな言語の人々が集っています。神さまに招かれて集う私たちは、ひとつの家族です。そのつながりを深めるために、いろいろな言語のミサにあずかりませんか。

【つながるプロジェクト】は各言語のミサへの参加をサポートします。

第1弾として、主日の英語ミサにあずかります。

日時：5月12日(日)12時の英語ミサ

申込方法：下記QRコード、または事務室横の申込書をご利用ください

*いろいろな言語の人と一緒にミサにあずりたいけれど、勇気がない…

*いろいろな言語の人と触れあいたいけれど、きっかけがない…

そんな方はぜひ【つながるプロジェクト】にご参加ください。

*詳細はポスター、チラシでご確認ください。



●新協力司祭●

3月から中村健三神父が協力司祭として六甲教会(兵庫県)から着任されました。よろしくお願いいたします。



●メリエンダ●

4月からメリエンダを再開します。各種飲み物、サンドイッチ、トルテリアなどをご用意しています。

日時：毎月 第2・第4 日曜日 10:00～14:00
場所：テレジアホール

4月の典礼と行事

5 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
7 (日) 復活節第2主日 (神のいつくしみの主日)	初聖体 10:00 ミサ ミサ後お祝い会 ヨセフホール
8 (月) 神のお告げの祭日	
10 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
14 (日) 復活節第3主日	
17 (水)	クリプタに安置され4月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2024年度連続セミナー』 シノドスの教会-皆が参加し、ともに歩んでみよう- 18:30 ヨセフホール シノドス:今までの歩み -今年のプログラムと方法- 講師:ポネット・ピセンテ神父
21 (日) 復活節第4主日	改宗式 10:00 ミサ ミッション 2030 小さな分かち合い 世界召命祈願の日
24 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
25 (木)	ヤングオールド映画会 『大いなる沈黙へ -グランド・シャトルーズ修道院-』 13:00 ヨセフホール
28 (日) 復活節第5主日	歓送迎会 10:00 ミサ後 ヨセフホール

最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

●移動のお知らせ●

ヘネロソ・フローレス神父は健康上の理由から「イエズス会ロヨラハウス」(練馬区上石神井)へ1月30日に移動されました。

皆さま、フローレス神父の健康のためにお祈りください。



●セントロ・ロヨラから●

スペイン語圏のお世話をしている「セントロ・ロヨラ」のシスター イベッテ・サンチェス(御聖体の宣教クララ修道会)が他の仕事に就くため退任され、新しく同会のシスター マルセラ・ロサスが着任されます。よろしくお願いたします。



主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

サトルニノ・オチョア

柴田 潔

協力司祭：ハビエル・ガラルダ

中村 健三

グエン・バン・テー

関根 悦雄

マヌエル・シルゴ

シスター：マルセラ・ロサス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00/19:30 (Viêt Nam)

日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Viêt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会 (聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



Linktree (リンクツリー)
リンクツリー (linktree) とは多数のリンクをまとめて表示しているツールのことです。このQRコードを読み取ると教会ホームページ、教会ガイド、Twitter、Facebook、Instagram、YouTubeへアクセスできます。

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。